



Kazé



ルヴァン便り No.19

2019.6

個性の開花 I 西村伊作の蒔いた種

1921年に開校した文化学院は「芸術」を教育の軸におき、創立者西村伊作は既成の枠にとらわれない、自由で美しいものを追求するという独自の教育理念を貫きました。伊作の蒔いた種は、文化学院で学んだ人達の中で様々な個性となり開花しました。

「小さくても善いもの」の伊作の言葉どおり小さな学校でありながら、卒業後に彼らが進んでいった分野はまさに百花繚乱—美術、デザイン、工芸、陶芸、建築、音楽、文芸、舞踏、芸能、映像、写真、服飾、学術、ジャーナリズムなどと多岐にわたり、自由でユニークな個性を発揮しています。

今年の企画展では、戦後から昭和の終わりまでに文化学院で学び、主に美術、デザイン、工芸、陶芸、文芸の分野で表現活動をしている人たちを紹介し



修復前の西村伊作自邸Ⅲ

同時開催として、新宮市の「西村伊作自邸Ⅲ（西村記念館）」の復元工事が3年を経て終了したのと、「チャップマン邸」の改修を記念して、その経過を写真と模型で展示し、居間を中心とした住宅建築から、家族中心、教育、生活改善を考えた西村伊作の思想の原点を探ります。



「Portrait of Nana No.4」
石丸 寛



「無題」
坂倉新平



「水の想い出」 志村ふくみ



「春の花」 丹阿弥丹波子



「フォルム '92-1」
斎藤康介



「微風」三連画 2016

吉屋敬



「根霊顔想」 石井竜也



「炭火煉上湖音図壺」
小野寺 玄



「砂漠から川そして雲」
久里洋二

西村伊作旅行日記(10) (イギリス後半・オランダ・ドイツ)

伊作は1909(明治42)年3月横浜を出港し、スエズを経て、5月2日ナポリに上陸。その後、イタリア、スイス、フランス、イギリスを巡った。今回の日記では、米国に渡る前、イギリスから再び船でオランダに渡り、次いでドイツを数日間巡っている。伊作はこの地で美しく整備された町や、モダンデザインの数々に触れたことを記していて興味深い。

なお、□は不明な箇所である。



● 5/26

朝またオックスホードの町を見て歩いた。雨がふる。汽車でロンドンへ帰る。やはり天気が悪い。メープル会社と云ふロンドン一の家具商を見た。店を見せてくれと云ふたら一人□□して丁寧に案内してくれた。初めから何も買わんのだが只参考の為見せよと云ふたら、しばらくまでと云ふて案内者を拵へてくれて案内してくれたのである。大に有難いと思つた。

● 5/27

汽車でハルウツチと云ふ所迄来た。そこは英国東海岸でオランダ、ベルギウム等へ船の出る所だ。砲臺などもあり、軍艦もついて居る。海岸に甚綺麗な公園を拵へてあつて其付近は別荘計りである。海を見はらす高い岸で甚景色が良い。至る所英国は綺麗に手入れがしてあるのに感心する。今晚十時の船でオランダへ渡るのである。汽船の出る所はハーウツチの町から遠く何も無い所であるが、大きな立派な停車場で、隣りが船付き場である。このステーションで長い間まつて居る。しづかな所で骨休めによい。今晚は船でねられぬであらうと覚悟して居る。

● 5/28

朝五時半頃 フック オブ オラントと云う所へ船が付いた。オランダである。それから汽車でヘーグ迄来た。そこはオランダの首府であるけれどもあまり大きな町ではない。然ししづかなきれいな町である。森の多くあるので□高い森の中の宮殿は初回の平和会議のあつた所だ。建物はさほどに□的なものでもない。堀川が多い。サツパリした町である。日本の公使館もある。そこで米国行きの旅券をもらつた。公使館員以外だれも日本人が居らんげな。公使館

員はさむしい事島流しの如しと云ふて居る。それで訪ねて行つても甚□切であつた。

スケブニンゲンと云ふ海岸で海水浴場へ行つた。大きな建物がある。ホテルも多くある。海□へ□を作りそのさきに家を拵えコーヒー店がある。イルミネーションをして立派にしてある。濱にはかごの□□で屋根のあるのを□□に置いてある。人□は其中にこしかけて女をよんで居る。その町にはあみを引つはりまはして町をか古つて居た。□が□□9じ客引の用意であらう。ステーション近くの一人□□宿で一ぱんとまる。

● 5/29

朝ヘーグを發し、アムステルダムへ来た。オランダ第一の都会である。人も一番多い。例の如く水の都に至る所運河がある。地ばんが悪いと見へて、家が多くかたむいて居る。しかし至る所清潔である。博物館を見た。オランダは実に風車が多くある。其仕かけが大したものだ。少しも山が見へん。平地低地である。木之家が多く見ゆる。草屋根もある。牛がはつて居る□はある通りの所もある。汽車も英国やフランスのより清潔である。□□□は獨逸の商品が多く入つているらしい。獨逸式のものが多い。オランダ的の風□した女なども見える。

● 5/30

朝アムステルダムを發しブレーメンに向ふ。□□の□□に賞するものがなかつたが、□□□□家の草屋根を木の間に見る。そして獨逸領へ入ると畑がよく出来て居て、木も多くある。そして熱心に木を植へつつあるらしい。汽車をのりかへるためオスナブリツクと云ふ町へ降りて次の車をまつ間二時間程を得て町をぶらぶら歩いた。獨逸の町は実に新鮮である。清潔で規則的で新美術の応用が凡ての建築に行はれている。そして建築及道具類が凡て奇抜のデザインである。獨逸の進歩的なる事が分る。夕方ブレーメンへ着いた。ここも甚美しい街である。今迄見た町の中で最も美しい町であらう。木も多くあり公園も所々にある。オスナブリツクやブレーメンの町は丁度博覧会場を歩いて居る様に凡てが目新しい建築で商品も新式のもの計りである。そして商品は甚やすいらしい。

● 5/31

ロイドへ行つて切符をもらつた。中々せわしいのに直ちに用を達してくれた。甚手早い。

町をぶら付いた。ホテルの主人が私を公園やら別荘のある所やら古い町や博物館やらへ案内してくれた。午後も一人でぶら付いた。店をのぞいたり公園を歩いたりした。ブレーメンの町の真中に池がある。細長くてうねうねしている。堀川である。あひるや白い鳥が浮んで居るし、魚もあるその池の周囲には木が植へてあつて芝草が実に綺麗になつて居る。小公園が長く町を横切つて居るわけだ。町もしづかで建物は皆綺麗に新しく見江る。ロンドンやパリの様にくすぶつて居らぬ。多くの家は新美術の応用が多く奇抜なデザインが多い。而しあまり色々な形色が一所にごちゃごちゃしていると目に快よくない。一つの建築物はそれ相応の場所を欲して其中に毅然と立つて居るのがよい。此意味に於いて日本の建築物は周囲の建物が小さいために□□に立派に見ゆる。今迄此町ほど美しく調子のよいのをみなかつた。凡てが近歩的の風がある。衣服も道具も皆新意匠のものが一般に行はれてある。歴史的の趣味はないだろうが獨逸は凡て現実的であるらしい。

(西山修司)

2019年度 ルヴァン美術館のご案内

6月8日(土)～11月4日(月) 10:00～17:00
水曜日休館(7月15日～9月15日は無休)

陶芸教室

午前 10:30～12:00 / 午後 14:00～15:30 講師:森田高正 2,500円(材料費含) 7月13日(土)・14日(日)

フラワーアレンジメント

10:00～17:00 講師:捧泉美 1,000円(材料費含) 7月28日(日)

木工教室

10:00～16:00 講師:永島秀之 1,000円(材料費含) 8月11日(日)～8月15日(木)

サマーコンサート

①近藤和花 ピアノコンサート(第12回) 8月4日(日)

②ボサノバ・サパトス/木村 純・三四郎(第16回) 8月10日(土)

③一噌幸弘 和の笛・洋の笛 音楽の旅(第8回) 8月18日(日)

④寺田悦子・渡邊規久雄/四手連弾ピアノコンサート(第2回) 8月23日(金)

⑤ヴァイオリン、チェロ、ピアノのトリオ室内楽(第2回) 8月31日(土)

演奏者:ベアンテ・ボーマン(チェロ) 矢崎さくら(ピアノ) カレン・イスラエリヤン(ヴァイオリン)

⑥立原道造・堀辰雄の朗読コンサート ～フルート、ヴィオラ、ハーブの音楽とともに～ 9月7日(土)

演奏者:野口方子(朗読) 岩下智子(フルート) 千田悦子(ハーブ) 成田寛(ヴィオラ)

⑦Mimosa in Autumn 歌とピアノで奏でるミューズの秋 9月21日(土)

出演者:岡本実佳(ソプラノ) 佐藤篤子(ソプラノ) 和田綾子(メゾソプラノ) 大坪由里(ピアノ)

入場料:

①②③⑤⑥ 一般:3,000円 中学生以下:1,500円 未就学児:無料

④⑦ 一般:4,000円 中学生以下:2,000円 未就学児:無料

②④⑦はビュッフェあり 先着30名 要予約 17:00より

②はビュッフェ1,800円 ④⑦はビュッフェ込み入場料 大人6,000円、子供3,000円

時間:

①⑤⑥ 開場:17時 開演:17時半

②④⑦ 開場:18時 開演:18時半

③ 開場:16時半 開演:17時

※コンサート開催日のみ、美術館は16:00に閉館致します。

陶芸教室

午前 10:30～12:00 / 午後 14:00～15:30 講師:森田高正 2,500円(材料費含) 8月17日(土)・18日(日)

毛糸のクラフト教室

午前 10:00～12:00 / 午後 14:00～16:00 講師:木田三保・捧泉美 1,000円(材料費含) 9月7日(土)・8日(日)

ギャラリートーク

14:00～15:30 西山修司氏(建築史家)「西村記念館と旧チャップマン邸について」 8月17日(土)

秋のアートフェスティバル

10:00～17:00 スケッチ大会開催 入館無料 10月6日(日)

☆カフェテラス Cafe Le Vent、ミュージアムショップ Le Vent は、常時ご利用いただけます。

ルヴァン美術館: 〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢長倉 957-10 Tel.:0267-46-1911 Fax.:0267-46-1910

東京事務所: 〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-14 Tel. & Fax.:03-3401-8896 <https://www.levent.or.jp>